

この街が好きだから

みんなで手を携え、支え合い、ぬくもりのある街にしていきたい。そんな思いを胸に、グループで、地域で、いきいきと活動をする人たちがいます。

JR白石駅周辺地区の街づくりをみんなで考える

JR白石駅周辺地区街づくり協議会

JR白石駅の一日当たりの乗降客は約一万三千人。道内有数のマンモス駅です。このうち約六割は駅北側からの利用者なんです。駅北側に乗降口はないんです」とJR白石駅周辺地区街づくり協議会（大竹利弘会長）で幹事を務める嵯城周造さんは残念そうに話します。

線路を挟んだ南北の町内会や商店街などが協力して同協議会を設立したのは平成十一年のこと。ワークショップで話し合いや住民アンケートなどを通して、駅周辺の整備のあり方を模索しています。

「やはり線路で分断されていることが街づくりの面から見ても大きな障害になっていきます。駅を橋上化して南北をつなぐ自由通路を設置してほしい」という声が多いですね」

これまでのワークショップ参加者は延べ五百人。協議会では、地域で街づくりへの関心が高まっていることを実感しています。この二月には、駅を再整備した場合の利用者の動向について、住民アンケートも実施する予定です。

こうした動きを受け、市でも同協議会と連携しながら、駅周辺地区の再開発計画づく

りを進めています。

「駅の再整備はもちろん一番の目標ですが、街づくりは地域住民の交流が大切です。みんなが気軽に参加できるイベントも行っていきます」。昨年五月に実施した花いっぱい運動もその一つ。美しい花を入れたバスケットを駅前

の街路樹などに飾りました。また、昨年には高齢者や障

害者に電動スクーター、車いすを貸し出し、商店街などでの移動に使ってもらう「タウンモビリティ」の導入実験に参加し、地域のバリアフリーにも取り組んでいます。

「この辺は、のんびりした住宅街なんです。そんな『らしさ』を守っていききたいですね。それに、高齢社会ですから暮らしやすい街が理想。日常の買い物に便利な商店街のにぎわいも大切だと考えています」と話す嵯城さん。一歩一歩、確かな足取りで街づくりを続けていきます。



第7回ワークショップでの様子。約60人の参加者が九つのグループに分かれ、活発な意見交換が行われました

広告欄